

冬の黒斑山 (2404m)

冬の浅間山はプリンに粉砂糖をまぶしたようだ。白い筋が放射状に延びる特徴的な雪化粧は、「これが浅間山」と山好きな人ならだれでもわかる姿を見せてくれます。今回計画した浅間山第一外輪山の最高峰である黒斑山(2404m)は、絶好のビューポイントになります。山行の案内に本格的な冬山と銘打ったためか、参加者は8名とやや少なかった。1月12日の下見には別に2名が同行しました。浅間山は活火山であり、わが国でも活動的な火山として知られる。現在は小康状態であり、昨年8月にレベル1まで規制が引き下げられ、河口から500mの前掛山まで行けるようになりました。今が安心して近づけるチャンスです。

大町市役所に7時に集合、2台の車に分乗して麻績ICから高速道路、小諸IC下りて一般道の浅間サンラインを経由して高峰高原まで、約2時間とやや長い車旅になりました。高峰高原へは広い車道が山の南斜面に付けられ、除雪されて舗装がほとんど出ていました。登り切った車坂峠が登山口になり、ビジターセンター横の駐車場に車を止めました。下見の時は駐車場がいっぱいでしたが、今回は雪が多くなりスペースが狭くなっているにもかかわらず、車は少なかった。峠から先が高峯高原で、冬はアサマ2000スキー場となる。その名のとおり、すでに標高約2000mの高さとなっています。高峰高原は群馬県妻恋村となり、車坂峠が小諸市との堺になります。

駐車場でアイゼンを付け、登山者カードを出して登山開始(9:30出発)。登山口で登山コースが2つに分かれるが、展望の良い表コースを登る。トレースがしっかりできていて迷うことはない。まばらな樹林帯のなだらかな広い尾根を進む。変形した唐松を見ると風が強い山であるこ



表コース車坂山付近



槍の鞘手前、噴火避難シェルターで風をよける

とがわかる。30分ほどで車坂山と呼ばれる平坦なピークに達する。ここでは佐久平や八ヶ岳が一望でき、富士山も見える。少し下って、今度は前よりは急な登りとなる。雪上には様々な獣の足跡が多い。何の動物か、どっちへ進んだかと想像力を働かせる。テンやイノシシの大きな足跡もあった。樹林帯が多く、積雪は1m以上あると思われるが、吹きさらしの尾根では岩が出るくらいで、アイゼンも

小気味よく効く。一部にアイゼンの調子がいまいちで、何回か調整してだまかし高度を上げる。浅間山が見え出すと間もなく噴火時の避難シェルターがある。中に入って避難時の感触を得る。今日は全く危機感がないのは当然。すぐに「槍の鞘（または赤ぞれの頭）」に出る。ここまで来ると浅間のほぼ全貌が見える。下見の時はここで大休止を取ったが、今回は風が強いため先を急ぐ。前方にトーミの頭への急峻な登りが見え、あれを登るのはちょっと躊躇の気持ちが走る。いったん下り、鞍部で中コースと合流する。いよいよ先ほどためらった登りに入る。急ではあるが思ったより簡単に登れ、トーミ



トーミの頭への急登



トーミの頭で浅間山をバックにパチリ

の頭へ到着する。時間はすでに 12 時を回っていた。時々突風のような強い風が肌を刺すが、まさしく絶景の浅間山は、雲一つなくその姿を惜しみもなく現わしてくれた。風が強くと、急速に体温が奪われてしまうため、短い昼食を取り、下山することにした。下りは中コースを下った。ほとんどが樹林帯の中であるが、開けた日当たりのよい斜面では「雪まくり」をして楽しんだ。1 時間 20 分

ほどで駐車場に到着。雪の中を歩くのは結構疲れるものでした。

帰路には、浅間山周辺の特徴である鉄分で茶色くなった温泉の一つ「天狗温泉浅間山荘」でゆっくり汗を流し、冷たい甘酒や暖かいミルクもおいしかった。温泉で一緒になった前掛山へのパーティも風が強くて頂上手前で引き返したという。

今回は天候が良かったが、天気がかくれれば厳しい山行になる。悪天候の経験も必要であり、幹事の一人は今回体験出来ればとひそかに考えていた。

頂上まで行けなかったが、みなよく頑張りました。拍手！！



煙なく 静けさ不気味 あさま山